

WWEA と GWEC との交流会 (2011 年 9 月)

国際部会長 上田悦紀

1. 経緯

ソフトバンクの孫正義社長が、自然エネルギー財団 (JREF) を設立して、2011 年 9 月 13 日に設立イベント、翌 14 日に自然エネルギー専門家会議を開催しました。世界風力エネルギー協会 (WWEA) と世界風力会議 (GWEC) の両事務局長 (Stefan Gsängers 氏と Steve Sawyer 氏) も風力関連の専門家として招待されました。JWPA 国際部会と JWEA 国際委員会で、双方との交流会を開きました。

表 1 交流会の内容

	WWEA	GWEC
日時	9 月 14 日夕方	9 月 15 日午後
場所	東大荒川研究室	JWPA 会議室
相手	Gsängers 事務局長	Sawyer 事務局長
日本	JWEA 荒川先生、 長井先生、上田	JWPA&EA 合同国 際部会メンバー
内容	交流会と会食	交流会

2. WWEA との交流会

JREF 専門家会議後、本郷の東京大学荒川教授 (WWEA 副会長) の研究室に移動して交流会を開催。相互にプレゼンしてから、自由に討議しました。

WWEA の社会的受容性の調査 (スコットランドとオランダ) では、風車が身近にある町 (Zschacraß)の方が、風車が無い町 (Nossen) に比べ、風車の新增設に好意的な意見が多い、という結果が出ています (図 1)。人にはよく知らない物を恐れて敬遠する傾向があります。風車の景観や騒音による反感が日本で実態以上に広がっているのも、「風車がどんな物か？」を知ってもらう努力を私達が怠った結果なのかもしれません。

日本側のプレゼンでは、

- ① 北海道・東北の風力資源と首都圏の電力需要との地理的ミスマッチがある
- ② 両者は電力会社が違い、電力融通が難しい
- ③ 環境アセス強化で今後の新設は3年以上かかる

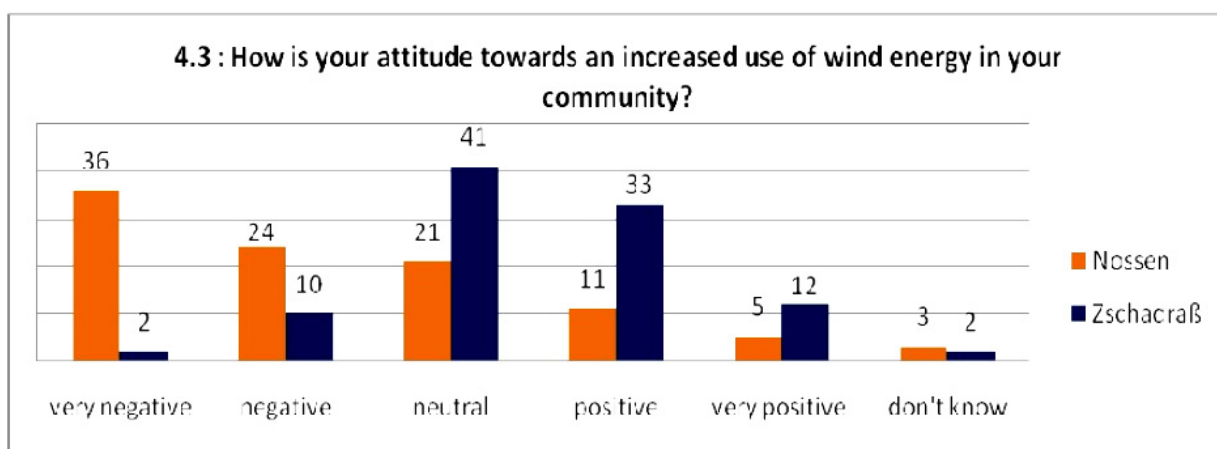
等の現在の課題を紹介しました。

Gsängers 事務局長からは、

- ・ JREF 専門家会議では問題点の指摘は無かった。
- ・ F I T で日本の風力は大丈夫だと誤解していた。

旨のご理解の言葉をいただきました。

この討議は、居酒屋での夕食会の間も続き、懇親を深めることができました (図 2)。



Source: LOCAL ACCEPTANCE OF RENEWABLE ENERGY – A CASE STUDY FROM SOUTHEAST GERMANY, published 2011
Fabian David Musall* and Onno Kuik, Institute for Environmental Studies, VU University Amsterdam

図 1 風車の認知度と重要度の関係 (オランダでの調査例)



図2 WWEA のGsängers 事務局長との夕食会



図3 GWEC のSawyer 事務局長との交流会

3. GWEC との交流会

翌 15 日は、JWPA と JWEA の合同国際部会の 15 名で JWPA 事務所に GWEC の Steve Sawyer 事務局長を迎えて、交流会を開きました (図 3)。

Sawyer 氏のプレゼンでは、

- ① 風力発電はこれからも力強く成長を続ける。
 - ② 風力発電のコストは石炭よりも安くなっている。
 - ③ ただし中心は欧州からアジアに移っている (図 4)。
 - ④ 今後は洋上風力も伸びる。
 - ⑤ ③④の点で今後の日本に期待している。
- 旨を熱く語られました。

その後の質疑では、天然ガス火力と風力発電の競合について盛り上がりました。2011 年 2 月に雑誌 Economist 主催の公開 Web 討論会で、天然ガスを推す欧州石油業界を相手に単身で風力推進の論陣を張り、過半数の支持を獲得して勝利した Sawyer 氏にとって、この話題は譲れないテーマだったようです。

日本の風力発電については、

- ・ 欧米に比べてコストが高い。
- ・ 送電インフラの整備が必要だが、脆弱な現政権では実現が難しい。
- ・ JREF の代表理事に就任した Kaberger 氏は適材だ。

等のコメントがありました。

GWEC としては、今後も日本の風力発電導入促進のために、国際会議、世論形成、人脈形成などで協力してゆきたい旨を申し受けました。

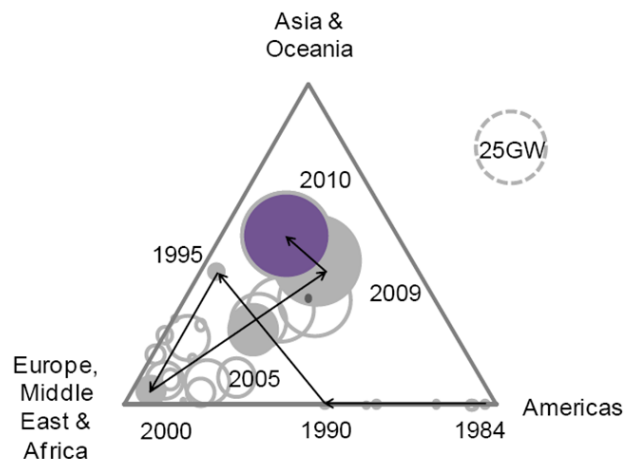


図4 風力発電の中心地域の変遷

4. まとめ

3. 11 の東日本大震災以降、日本のエネルギー政策の動向が世界の注目を集めています。2012 年 3 月にも JREF がイベントを開催して、世界の専門家が来日されるので、今後も世界の風力団体と継続的に交流を図っていきたいと思います。